

過疎地域での地域づくり活動立ち上げにおける外部支援者の新たな役割

—対馬市志多留地区での食品加工事業の実践を通して—

菅田 奈緒美

キーワード：対馬，限界集落，過疎地域，地域づくり，外部支援者

1. 背景と目的

現在、全国の離島・中山間地域では過疎高齢化が深刻な状況にあり、地域社会における活力の低下が問題となっている。これを改善すべく地域再生を目指して多くの外部人材が地域の中に入って種々の活動を行っている。従来の研究では、住民が地域づくり活動を起こすためには、住民自らが課題意識や共通の目標を持ち、自らで内発的に活動する必要があるとされてきた。それゆえ、外部支援者の役割は、ワークショップなどにより住民の課題意識の啓発や活動への主体性を引き出すことが重要であると考えられてきた。しかしながら、そういった先行研究で取り上げられるのは、住民の意識高揚により行動を起こすことが可能な人的資源や地域資源のある地域である場合が多い。一方、過疎高齢化が深刻に進んだ地域では、若者の流出により人的資源が失われている事も多々あり、多大なエネルギーを要する「活動の立ち上げ」が内発的に始まる事はほぼ期待できない状況にある。そうした地域で地域づくり活動を始めるためには、外部支援者が果たすべき役割について改めて検討することが必要である。

そこで本研究では、筆者自身が外部支援者の役割を担いながら地域づくりのための実践的活動に主体的に取り組み、具体的な活動立ち上げまでのプロセスや、これにより生じうる課題を整理し、外部支援者の役割を検証する。また、過疎高齢化が深刻である地域において地域づくり活動を推進するため、必要な諸条件も提示することを目的とする。

2. 対象地域と研究の方法

長崎県対馬市志多留地区を対象とし、食品加工事業立ち上げに関する種々の活動を住民と協力しながら実践した。地域特性を考慮した地域づくり活動の具体的選定に始まり、市場調査、広告作成、必要な許可証の申請など主体的に活動を行った。その過程において住民への聞き取り調査、参与観察、ワークショップ等により必要な情報を収集した。

3. 結果と考察

現地の地域資源の把握、法律上の制約等を考慮し、対象地域では食品加工事業が地域づくり活動として適しているという判断を行った。本事例においては、活動に取り組む上での住民の意識の面での課題として、i) 活動を始める動機の欠如、ii) 活動の成功イメージの欠落、iii) 旗振り役・実務作業の担い手になることへの敬遠、が浮かび上がった。これらを克服するために、筆者は住民に対して①信頼関係の構築、②課題の意識化、③成功イメージの共有、④小さな成功体験づくり、⑤地域づくり活動の開始、といったアプローチをとり、住民の発言の変化などからそれぞれの効果を確認した。筆者が旗振り役・実務作業を担ったことで食品加工事業を開始することができ、これに派生して、住民は活動自体に楽しみ・やりがいを感じ、徐々に当事者意識が芽生えてきた。

以上より、地域の実情によっては、地域づくり活動が立ち上がれば、活動に取り組む中で住民の主体性が形成されていき、継続的な地域づくり活動となりうることが実証された。その過程において外部支援者は、住民の意識的障壁を取り除き、立ち上げの部分を主体的に担い、活動へ住民を巻き込む役割が求められる。また、食品加工事業の立ち上げに関わる事で、行政上の手続きの煩雑さや食品衛生法の縛りが、過疎地域での地域づくり活動の大きな障壁となっていることがわかり、この点での改善案も提示している。